

みのEDO

発行：多治見市美濃焼タイル振興協議会

TEL 0572-43-2141

発信：多治見市・笠原町東京情報局

TEL 03-5225-6863

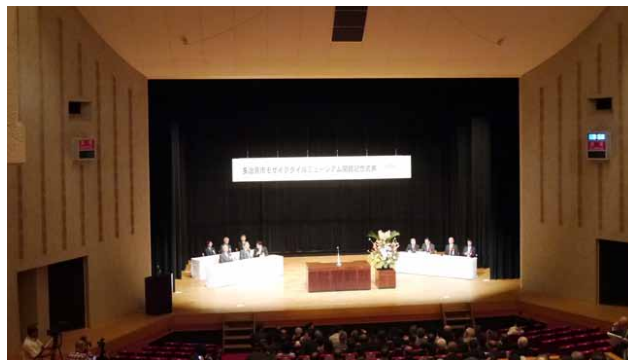
特集 町とともに生きるタイルの館 多治見市モザイクタイルミュージアム 開館！

2016.6.3. オープニングセレモニーから

全国一のシェアを誇るモザイクタイルの生産地、多治見市笠原町に待望の「多治見市モザイクタイルミュージアム」が6月4日にオープンした。土から生まれたタイルを象徴する土の館は、その中に宝石のようにタイルがきらめく。町とともに生きるタイルの館——である。オープン前日に行なわれた開館記念式典のもようをレポートする。



テープカット



開館記念式典

6月3日午前10時、オープニングセレモニー（開館記念式典）が笠原中央公民館アザレアホールにて開式された。司会は同ミュージアムの今井千春さん。始めに主催者を代表して古川 多治見市長より挨拶が述べられ、続いてスタッフ紹介、来賓祝辞、設計者挨拶・館長挨拶、業界の決意表明が行なわれた。抄録してご紹介する。

【主催者挨拶】

これからが本当の出発式

多治見市長 古川雅典氏



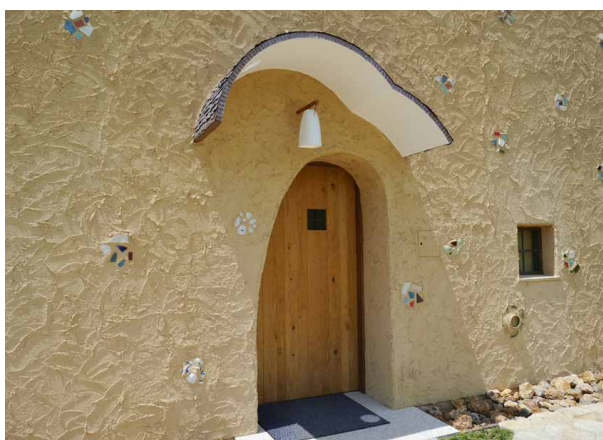
「10年来の悲願でした。10年前の1月に多治見市と笠原町が合併、合併特例債を使って新しい都市をつくる。そのなかで笠原の皆さんがこの地にタイルの文化を後世に伝える拠点をつくりたい、そしてタイルをもう一度経済的に復活させる。この二つの目的をもって完成したのが、多治見市モザイクタイルミュージアムです。場所は旧笠原町役場に決定、藤森照信先生にお願いし設計素案が示されましたが、初め私はまったく理解できませんでした。市役所の職員の多くも同じ思いでしたが、全国の藤森建築を見て回った前副市長のこれを推す熱意により、私どもはこの地に世界の藤森建築をつくろうと決めました。

笠原の先人が営々と集めてきたタイルの宝物を展示するミュージアムです。まずは教育の場として、笠原の子どもたちにタイルを見てもらいます。次いで笠原のタイルメーカー・商社・業界の皆さんがもう一度このすばらしいタイルを日本に、世界に発信する商談の場としてこれを自由に使っていただきたい。市役所では難しいルールは設けません。箱ものにしないために運営にも地元の皆さんに入ってもらい、皆さんが運営を担ってこの笠原のタイルを売っていただく。経済が潤沢になれば自分の子どもたちにタイルの仕事を引き継いでいくことができます。そういう役割を果たしていくのがこのミュージアムです。

今日の記念式典にこれだけ多くの皆さんに集まっていただけとは思っていませんでした。これが藤森建築の魅力であり、世界中から人が集ってもらえる第一歩でしょう。館はできましたので、これから魂を入れて商売を行なっていきます。本日の主役は後ろに並ぶタイル業界の三人です。若い世代の人たちにタイルをもう一度復活させる熱意があるのか。その情熱を聞いて建物をつくる決意をしました。今日からが本当の出発式です。すばらしい天候の下で最高の施設が完成しました。関係各位に御礼申し上げます。」



多治見市モザイクタイルミュージアム 正面外観



外壁に光るタイル

[スタッフ紹介]

学芸担当・村山関さん；多治見の皆さんがこの館で交流し、タイルの情報を発信していけるような施設にしていきたいと思います。

学芸担当・市原萌絵さん；小さなお子さんから年配の方々まで多くの方が楽しめるミュージアムにしていきたいと思います。

1階フロア担当・木村尚子さん；皆さんにこのミュージアムができて良かったといわれるようにがんばります。

総務担当・赤木朝子さん；多くの方々にタイルの魅力を知っていただけるよう、がんばります。

2階フロア担当・加藤祐三さん；産業振興という大きなテーマが与えられていますが、精いっぱい地域のために骨を埋める覚悟です。コンシェルジュという役割を担います。

ショップ受付&広報担当・今井千春さん；皆様に楽しいミュージアムだと思っていただけるよう、がんばります。

事務局長（総務/施設管理運営

担当）堀江哲史さん；本日の開

館記念式典にこんなに多くの皆

さんに来ていただいて感無量で

す。スタッフと多治見市ととも

に地域の皆さんや多くの方々に

何度も来ていただける楽しい施

設にしていきたいと思います。



スタッフ紹介



概要

多治見市は、モザイクタイル生産全国一のシェアを誇る多治見市笠原町内に、モザイクタイルのミュージアムを建設します。広い視野で語られる建築史論と、自らの視点に基づき独創的な建築作品で知られる建築家、藤森照信氏に設計を依頼。他に類を見ないユニークな建造物となることでしょう。業界関係者が主体となって収蔵してきた膨大な量のモザイクタイル資料を展示に生かし、業界ならではの技術、デザイン、商品開発の力を使って、多様なジャンルと協働しながらモザイクタイルの魅力を伝えることで、地域の産業と産業文化を世界に発信していきます。

- ◆正式名称 多治見市モザイクタイルミュージアム
- ◆開館 2016年6月4日
- ◆設置場所 多治見市笠原町2082番地の5
- ◆設計者 藤森、エイ・ケイ、エース設計共同体
- ◆主な収蔵品 モザイク浪漫館所蔵品他タイル関係資料。



モザイクタイルミュージアムのみどころ

- 1. 懐かしい昭和の国産タイルと、その膨大なコレクションを生かした展示**
笠原町の有志が20年近くにわたって集めてきた、モザイクタイル貼りの製品、サンプル台帳をはじめ、道具類や貴重な建造物の壁面の断片まで、1万を超える資料が収蔵されます。地元を中心とする国内のタイルの歴史を振り返る常設展示に加え、多彩な企画展示でタイルの魅力を伝えます。
- 2. 世界的建築家、藤森照信の設計・デザインによる「スゴイ公共建築」(GA Japan Vol.131, 2014より)**
建築史家であり、建築家としても従来の常識を超えるユニークな作品を発表し世界的に評価される藤森照信が、自分でも気に入ったという不思議な名前のミュージアムは、建築ファンも必見。建築の完成までに参加可能なワークショップも計画しています。
- 3. 地元のタイル工場との連携によって実現する様々な企画と情報の集積**
日本最大のモザイクタイル生産地である多治見市笠原町には、人口1万ほどの小さな町ながら、最盛期には100を超えるタイルの工場が存在しました。現在でも業界における全国トップシェアを誇っています。分業体制のもと様々な得意分野をいかして活動する工場、その各社の協力を得ることによって多様な企画を実現し、成長するミュージアムとなるでしょう。



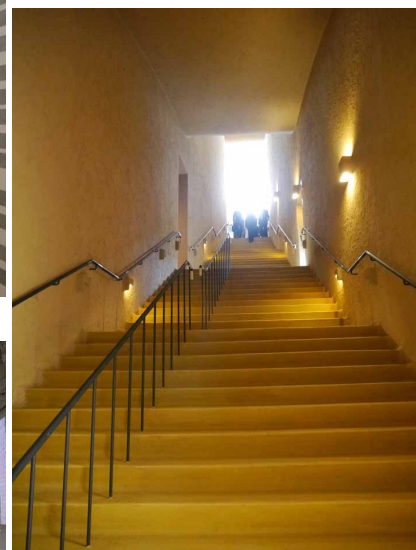
4階展示室のトップライト



1階エントランス（奥が体験工房）



2階産業振興



登り窯を彷彿とさせる階段室

【来賓祝辞】

笠原のシンボルとして

多治見市議会議員 加藤元司氏



「私も地元出身です。中学生の頃、当時はまだ道路は舗装も少なく、タイルの欠片がそこここにあります。様々な形と色のタイルがあり、それを他所から来た友だちが目をはかりつけて持ち帰っていきました。それから30年ほど経ち、ここに館長として出席されている各務さんがこのままでは歴史のある笠原のタイル産業が消えてしまうと、若手を集めてこれを残すためにモザイクタイルを集めようと呼びかけられた。私もメーカーや商社の古い倉庫のタイルを埃まみれになって集めました。本日、その拠点となるミュージアムが完成し、これからそれをどのように育てていくのか。皆さんのお力をお借りしながら、笠原のシンボルとして育てていきたいと決意しております。」

日本文化の発信拠点に

衆議院議員 古屋圭司氏



「温故知新という言葉がありますが、このミュージアムは原点である土が前面に出され、その中にタイルの昨日・今日・明日が展示されている。藤森先生の作品は素晴らしい感性でつくられていると感じます。笠原は日本で一番のタイル産地ですから、そこからタイルを文化も含めて情報発信する。建物はその手段です。目的はいかにして国内外にタイルをアピールしていくか。そのためにはいろいろなアイデアが必要でしょう。政府（省庁）でもそうしたソフトの開発に力を入れていますので、そういうものをしっかり活用して発信してほしいと思います。最近のタイルは意匠や機能、環境性などが非常に向上していますので、これからは経済発展しているASEANなどの新興国にもタイルをアプローチしていただきたい。また、昨年2,000万人もの外国人観光客が日本を訪れました。この海外からのお客様にしっかりこのミュージアムに足を運んでいただけるよう私も努

めたいと思います。世界に目を向けて取り組むことが大切です。どうか、このミュージアムを日本文化の発信拠点としてがんばっていただきたい。私も国政の立場からお手伝いいたします。」

タイル産業の発展に向けて

岐阜県議会議員 山本勝敏氏

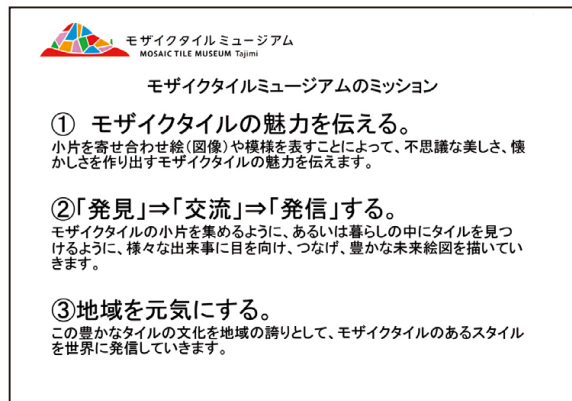
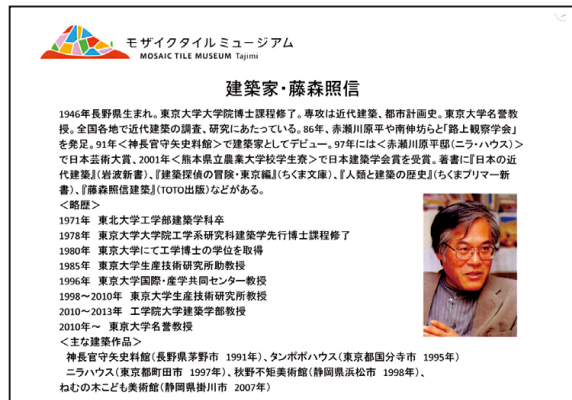
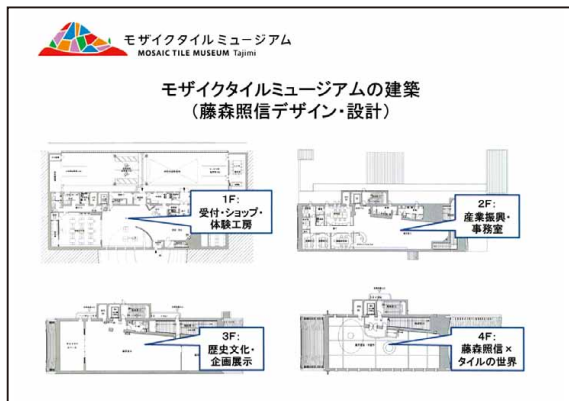
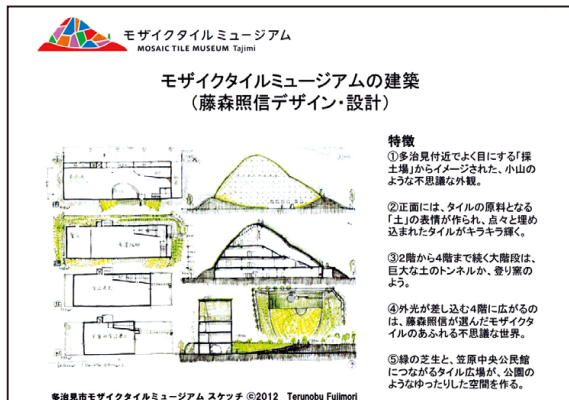


「多治見市長をはじめ市議会及び市の関係各位、そして地元笠原の皆様、タイル関係の皆様の強い熱意によってこのミュージアムが完成されたことを祝福いたします。設計の藤森先生はじめ建設に携わっていただいた皆様、本当に素晴らしい施設を建てていただきました。しかし本当のスタートは今日これからです。いかにこのミュージアムを活用してタイルをたくさん売るか。それによってこの地のタイル産業をさらに発展させていきたい。いろいろご苦労もあろうかと思いますが、関係者皆様のご活躍を期待しております。私どもも県政の立場から少しでもタイルを使っていたいただけるよう努力してまいります。多治見市全体が協力合ってこの地域の産業が発展するようともにがんばりましょう。」

岐阜県議会議員 高木貴行氏



「藤森先生にこのミュージアムの見どころとタイルの可能性についてお聞きしたところ、笠原にはいたるところにタイルの原料となる土を採る土採り場が見られるのでそれをモチーフにした。吹き抜けの階段は登り窯をイメージし、トップライトが天空につながる4階はタイル尽くしの展示が繰り広げられる。このミュージアムは劇的な空間構成によって、タイルの将来性を示唆している、ということでした。私はたいへんうれしく、同時にこの施設の未来の可能性を感じ取ることができました。ミュージアムは建物自体のすばらしさと同時に、多治見市や岐阜県を象徴する施設であります。我々も県政の立場からミュージアムのPRとタイル産業の発展に寄与していきたいと思います。」



【設計者挨拶】

土の中にタイルを魅せる！

東京大学名誉教授 藤森照信氏



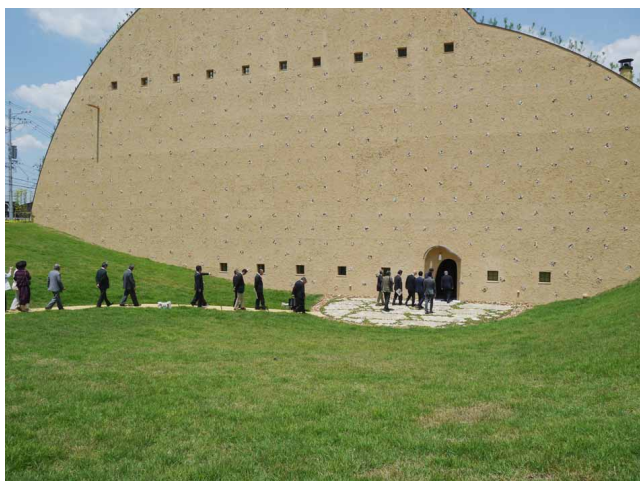
「私は設計もしますが、東大で学生たちに教えていたのは建築史です。日本の近代建築を専門にしていますので、日本のどこにどんなタイル建築があるか、あるいはそれが壊されてしまうか詳しく知っていましたから、各務さんが壊される前にタイルを保存したいと私の所に来られた。それが親交の始まりでした。また私は路上観察を仲間たちとやっていますが、ずいぶん前に多治見市から呼ばれて街を見て回りました。その頃からこの地域は知っていましたから、ミュージアムの設計を依頼されたときに一番困ったのは、タイルを見せなければいけないということでした。普通に考えますと、このアザレアホールのように大量にタイルを使おうと考えるでしょう。しかしここにさらにタイルを張った四角いものをつくっても、美術館としての価値も表現力もないと思いました。

建築界で一番タイルを印象深く使ったのは、スペインのガウディです。タイルを全面的に使った建築の名作がいくつかあります。既製品のタイルやわざわざ焼いた特別なタイルを使うのではなく、すでにあるタイルや焼き物を割って自由に張っています。スペインという乾いた風土とギラギラ輝く太陽のもとで、その割ったタイルがきらめく。いわゆるガウディ風というスタイルを確立したわけですが、それを真似るわけにもいかない。それで行き詰ったんですけれども、笠原には土を採る山がぼこぼここと切り立っている。これは地元の方にとっては日常的な風景ですが、

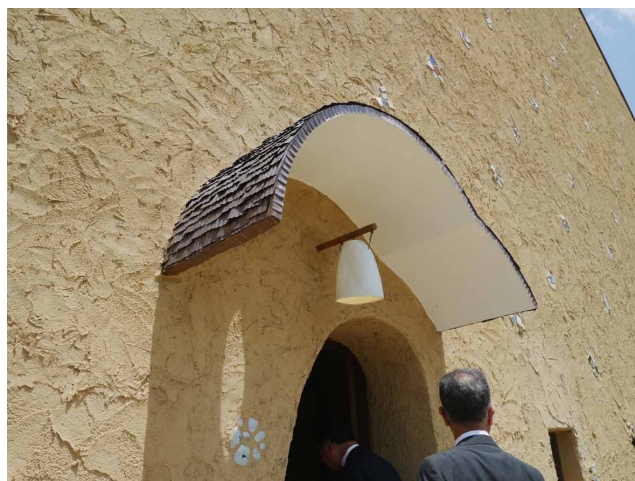
他所の町には絶対にはないものです。切り立った土の面が地層のように連なってその上に松の木がちよっと残っている。それでハタと思いつきました、タイルを土と一緒に見せようと。それでやっと設計の展望が開けました。

当然ですけれどもタイルは土からできます。それは日頃、忘れられがちですが、さまざまな形や色、趣きをもっているということも土からできているからです。また笠原は元々は茶碗の町で、そこからタイル産業が生まれて日本を代表する産地になった。ですから、建物の外壁には土を塗って、モザイクタイルや茶碗のカケラを張付けました。地元で焼き物をつくっている会社から余ったタイルや茶碗をいただきそれを壁に埋めています。

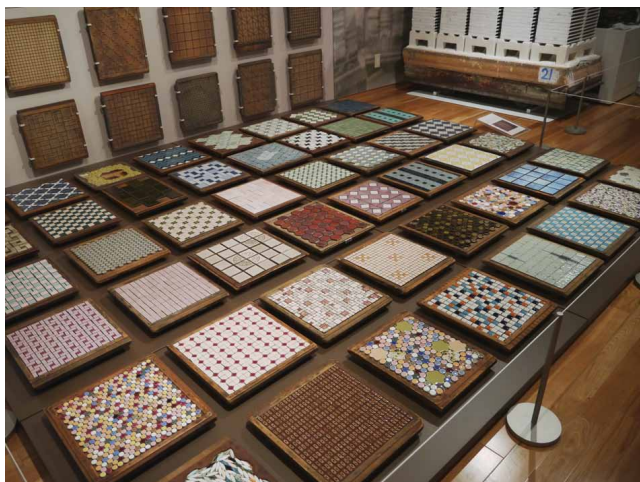
私はイメージを建物として表現するわけですが、建築というのは構造をはじめ内外装、仕上げ、配管配線など細かいところをしっかりと決めていかなければなりません。ところが私の建物は必ず新しいアイデアが出てきますから、言うは易く、つくるのは難しいです。一方で行政は予算があり、実験的、冒険的なことは避けたがりますから、そういうなかで基本設計を実現するために努力していただいた行政の方、実施設計や現場工事を担ってくださった方、そして最後に市民の皆さんに協力いただいたおかげで、ようやく建物を完成することができました。このミュージアムによって市民の皆さんや建築界などにタイルの魅力を少しでも伝えることができれば設計者としてたいへん嬉しく思います。天気の良い日もいいですが、雨の日も濡れた土壁に風情があっていいと思います。」



内覧会



内覧会



3階展示室（歴史展示）



3階展示室（歴史展示）

【館長挨拶】

歴史を継承しタイルを発展させる場に！

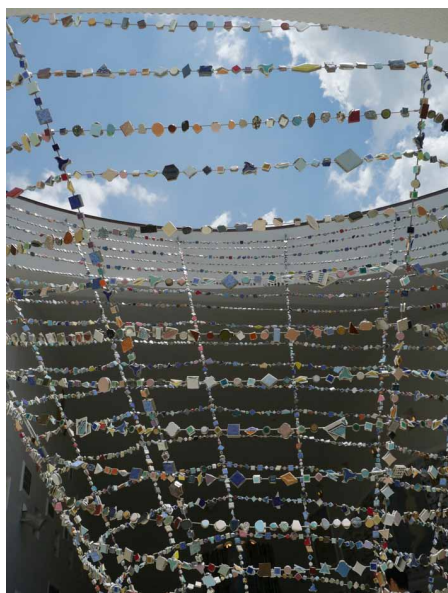
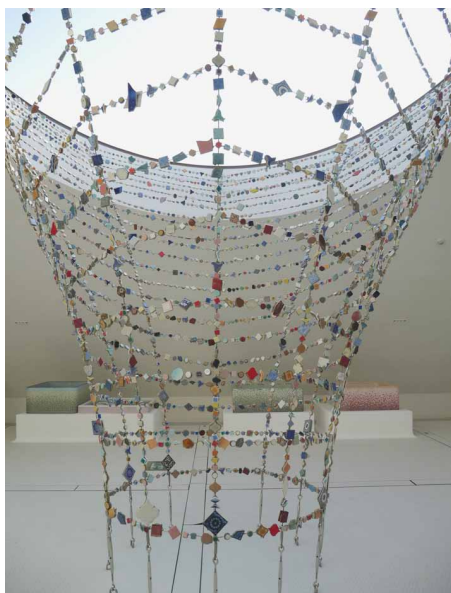
多治見市モザイクタイルミュージアム 館長／
一般財団法人たじみ・笠原タイル館 代表理事 各務寛治氏



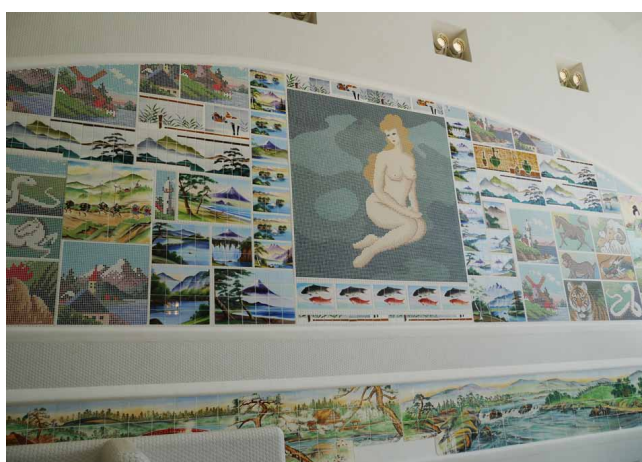
「20 数年前、みんなと一緒にこの地域でつくられたモザイクタイルを集めませんか——そう言って仲間とタイルを集め始めました。タイルというのは集めない限りやがて壊され、捨てられて無くなってしまふ。先人の築いてきたすばらしい足跡が消えてしまいます。これを何とか残していきたい。でも周りはタイルなんか集めてどうするの、箱ものをつかって誰が見に来るの？ 8割の方がそう言いました。それでもタイルはこの地域の誇りですよ。これを残さずして何を残すんですか。その将来はどこにあるんですか。そういう気持ちで多くの反対意見に耐えて仲間たちががんばってくれました。

それをカバーしてくれたのが、藤森建築です。藤森先生とも 20 年近いお付き合いになります。自然の素材をだいじに使っている藤森先生にこの町のタイルを象徴する建物をお願いしました。藤森建築はタイルを使っていない、といろいろご意見をいただきましたけれども、タイルを美しく

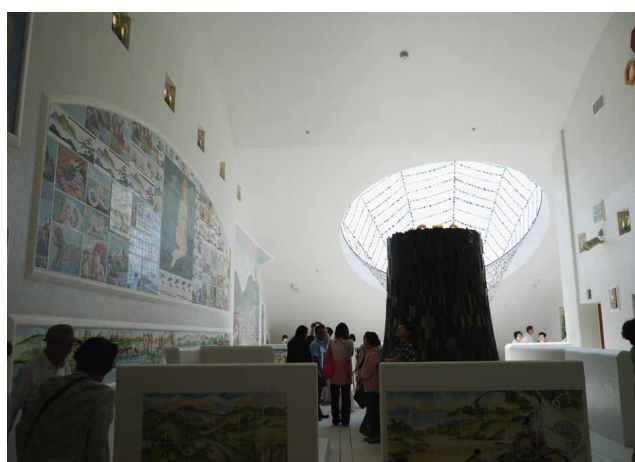
見せてくださいと先生にお願いした。それは多治見市の英断だと思っております。よく許可していただきました。ほんとうに多治見市の皆さん、ありがとうございました。お蔭様ですばらしい建物ができあがりました。そのなかでタイルが美しく輝いております。タイルの価値を存分に表現していただいた藤森建築であります。そして藤森先生とともに建築に携わっていただきました、建築界の皆さん、業界の皆さん、市民の皆さんの手によってすばらしいタイルの場ができました。ここをこれからの交流の場として、しっかり運営していく決意です。我々はその覚悟で 20 年来やってまいりました。今、原料の土を採る粘土山の閉山が相次いでいます。タイル産業は一大転換期にあります。まさにその時にこのタイル館の完成を見ることができました。新しい提案がここで行なわれます。そして交流しながら発想の転換をして、新しい事業を展開していきましょう。それがまさに過去の歴史を正しく評価し、将来へ継承することです。皆さんのお知恵を拝借し、ご意見をいただきながら、そういう場に育てていきたいと思ひます。どうぞ、よろしくお願ひいたします。」



4階展示室（ワイヤータイル装飾が天空に誘う）



4階展示室



4階展示室

【決意表明】

美濃焼タイルの新たな発展に向けて——
多治見市美濃焼タイル振興協議会会長 隅谷建弉氏



「協議会は建築建材展で『セラミックタイル 美濃』の展示をはじめ、他地域のイベントにも出展してタイルアートに親しんでいただくなど、美濃焼タイルの普及PR活動を進めてまいりました。このミュージアムも同じ目的をもって、『タイルの昨日・今日・明日』をテーマに美濃焼タイルを日本全国はもとより世界に発信する情報発信基地として設立されました。協議会とともに活動し、美濃焼タイルの発展に尽くしていきたいと思います。」

全国タイル工業組合 岐阜県支部長
水野雅樹氏



「各務館長のもとで一緒にタイルを集め、保存に汗を流してきました。いくつかのハードルがありましたが、藤森さんという著名な建築家をお迎えして、すばらしいミュージアムが完成し、ほんとうに嬉しく思います。往時、タイルは町の一大産業でしたが、衰退していくなか

でメーカーとして何かをしなければと、仲間たちとともに一生懸命取り組んできました。これを我々は生かしていかなければなりません。土のなかに散りばめられたタイルは、宝石です。いろいろな建築意匠材のなかで我々のアイデンティティをしっかりと出して、きらりと光るタイルをつくっていききたいと思います。」

協同組合ケーエスジー（笠原陶磁器商業組合）理事長
中島猪成夫氏



「すごい建物が完成し、すでに町のシンボリック的存在になっていると思います。我々は経済産業省認可の商業協同組合として美濃焼タイルをPRしていますが、多くの組合員は大都市にタイルのショールームを持っておりませんので、このモザイクタイルミュージアムを組合員全員で活用し、美濃焼タイルの販売、普及をしたいと思います。山の奥深くに咲く美しい花も知られることがなければ、その美しさは伝わりません。我々はこのミュージアムを多くの方々に知っていただき、タイルの魅力を伝えることで、タイル産業と地域の発展につなげたいと思います。」



3 階企画展



子どもたちの合唱



入口表示板とアザレアホール

続いて、笠原町のかわいい子どもたち（笠原幼稚園、笠原保育園）による合唱で「トゥインクルトゥインクル リトルスター」「世界中のこどもたちが」の2曲が開館を祝して披露され、式典の掉尾を飾った。

なお、モザイクタイルミュージアムでは、開館記念の企画展として「Echoes Infinity ー永遠なる物語ー」を開催中。既存の空間を利用しながら新たな意味を与え、鑑賞者の五感に訴えかけるインスタレーションで高い評価を受ける、大巻氏の作品制作に市民が参加。「もの」にまつわる思い出を共有しながら、作品として結晶化させたひとつの空間を作り上げ、展観している。

■ Echoes Infinity ー永遠なる物語ー 大巻伸嗣
2016年6月4日（土）－8月28日（日）
会 場：多治見市モザイクタイルミュージアム
3F ギャラリー

観覧料：300 円、高校生以下無料
（常設展も併せてご覧いただけます）

■ 多治見市モザイクタイルミュージアム
〒507-0901 岐阜県多治見市笠原町 2082-5
TEL 0572-43-5101 FAX 0572-43-5114
開館時間：9:00 ～ 17:00（入館は閉館の 30 分前まで）
休館日：月曜日（休日の場合は翌平日）
メール info@mosaictile-museum.jp
URL www.mosaictile-museum.jp